

# 第37回 群馬ストーマ・ 排泄リハビリテーション研究会

Gunma Society of  
Stoma and Continence Rehabilitation

抄録集

## 地域で取り組むストーマ・排泄ケア

2026.3.14 ⑤ 13:00～

会場

群馬県公社総合ビル

(群馬県前橋市大渡町1-10-7)

当番幹事

谷 賢実 (JCHO群馬中央病院 外科部長)

特別講演

2040年に向けて考える。  
～ストーマ・排泄リハビリテーションの課題と未来への展望～  
熊谷 英子 先生 (在宅WOCセンター センター長)

お問い合わせ先

第37回研究会事務局 (JCHO群馬中央病院内)

〒371-0025 群馬県前橋市紅雲町1-7-13

☎ 027-221-8165(担当:笹本) ✉ storeha37-jimu@gunma.jcho.go.jp

後援

群馬県・群馬県医師会・群馬県看護協会

日本医師会生涯教育講座認定

カリキュラムコード 10:チーム医療 1単位



# 開催概要

---

## 第37回 群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会

---

集 会 名 第37回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会  
テ ー マ 地域で取り組むストーマ・排泄ケア  
日 時 2026年3月14日（土） 13:00～17:30  
会 場 群馬県公社総合ビル（群馬県前橋市大渡町1-10-7）  
研究会：ホール / 幹事会：東研修室  
当番世話人 谷 賢実（JCHO群馬中央病院 外科）  
事 務 局 〒371-0025 群馬県前橋市紅雲町1-7-13（JCHO群馬中央病院内）  
TEL：027-220-8224、FAX：027-224-1415  
E-mail：storeha37-jimu@gunma.jcho.go.jp

## 群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会

---

会 長 関原 正夫（利根中央病院 外科）  
事 務 局 〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1（利根中央病院内）  
TEL：0278-22-4321、FAX：0278-22-4393



## 第37回 群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会

当番幹事 **谷 賢実** (地域医療連携推進機構 (JCHO) 群馬中央病院 外科)

第37回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会の当番幹事を拝命いたしました、地域医療連携推進機構 (JCHO) 群馬中央病院の谷賢実でございます。群馬中央病院が当番幹事を務めるのは、2007年の第20回研究会以来ですから、19年ぶりとなります。その間の医療情勢の変化はストーマ・排泄ケアにも影響を及ぼしました。超高齢社会の進展、急性期医療の効率化による在院日数短縮、地域包括ケアシステムの整備による多職種連携・在宅シフトの推進により、“病棟で完結しないストーマ・排泄リハ”が標準となりました。

群馬中央病院が所属する地域医療機能推進機構 (JCHO) は、地域医療・地域包括ケアの要として、地域で必要とされる医療や介護を提供することを使命としています。私自身も地域医療連携に深く携わってきたことから、今回の研究会のテーマは「地域で取り組むストーマ・排泄ケア」としました。特別講演には、仙台市で在宅WOCセンターを開設されている熊谷英子先生をお招きしました。「2040年に向けて考える。～ストーマ・排泄リハビリテーションの課題と未来への展望～」と題してご講演いただきます。ストーマ・排泄ケアの病棟完結から地域完結型への移行について、さまざまな観点から皆様と共に考えていければと思います。

一般口演では、テーマにとらわれず、各施設での現状や取り組み、課題などについて幅広く演題を募集いたします。本研究会でのご発表・ご討議が、今後の活動の一助となれば幸いです。また、本研究会が県内の創傷・ストーマ・排泄ケアに携わる全ての医師・看護師・医療従事者の交流発展の機会となることを祈念しております。多くの皆様のご発表・ご参加を心よりお待ちしております。

# 演者・参加者へのお願い

---

## 演者のみなさまへ

### 1. 口演発表

- 1) 一般演題の発表時間は、口演6分・討論3分です。時間厳守をお願いします。
- 2) 次の演者はあらかじめ次演者席に着いてお待ちください。
- 3) 質疑応答は、座長の指示に従ってください。

### 2. プレゼンテーションの準備

- 1) 発表は Windows PCで PowerPoint による発表となりますので、パワーポイントファイルでの作成をお願いします。発表用パソコンは、以下のものを用意します。  
OS: Windows11/ソフト: PowerPoint2019  
Windows に標準搭載されているフォントをご使用ください。また Windows に標準搭載のアニメーションは使用可能ですが、正確に表示されない可能性があります。
- 2) 発表データの事前提出はありません。当日 USB メモリに保存してご持参ください。事前にウイルスチェックを行ってください。
- 3) 研究会当日の PC 受付は 12:00~12:45 までです。PC 受付にて受付を済ませ内容の確認を行ってください。
- 4) 発表時のスライドの操作はご自身で行ってください。
- 5) 発表データは、受付用のパソコンに一旦保存させていただきますが、終了後に当会にて責任を持って消去いたします。

## 参加者のみなさまへ

### 1. 受付

- 1) 受付は12:00から開始します。
- 2) 参加費は2,000円です。学生、一般の方は無料です。

### 2. 協賛企業の展示について

エントランス、西研修室で、各社がストーマ装具や排泄・スキンケア用品の展示を行います。

### 3. 討論について

質問などの発言は座長の指示に従い、マイクを使用して、施設名と氏名を述べて簡潔に行ってください。

## 幹事のみなさまへ

当日、12:30から東研修室にて幹事会を行いますのでご出席ください。

# 交通のご案内

## 群馬県公社総合ビル

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7



### 電車をご利用の方

- 群馬バス  
前橋駅～イオンモール高崎行き、「公社ビル入口」を下車
- 関越交通  
大渡町線(前橋駅～関越交通前橋営業所)、「公社ビル入口」を下車
- 日本中央バス  
前橋吉岡線(上野田四つ角方面)、「公社ビル入口」を下車
- 群馬中央バス  
新前橋駅西口線(前橋駅前～新前橋駅西口)、「公社ビル入口」を下車

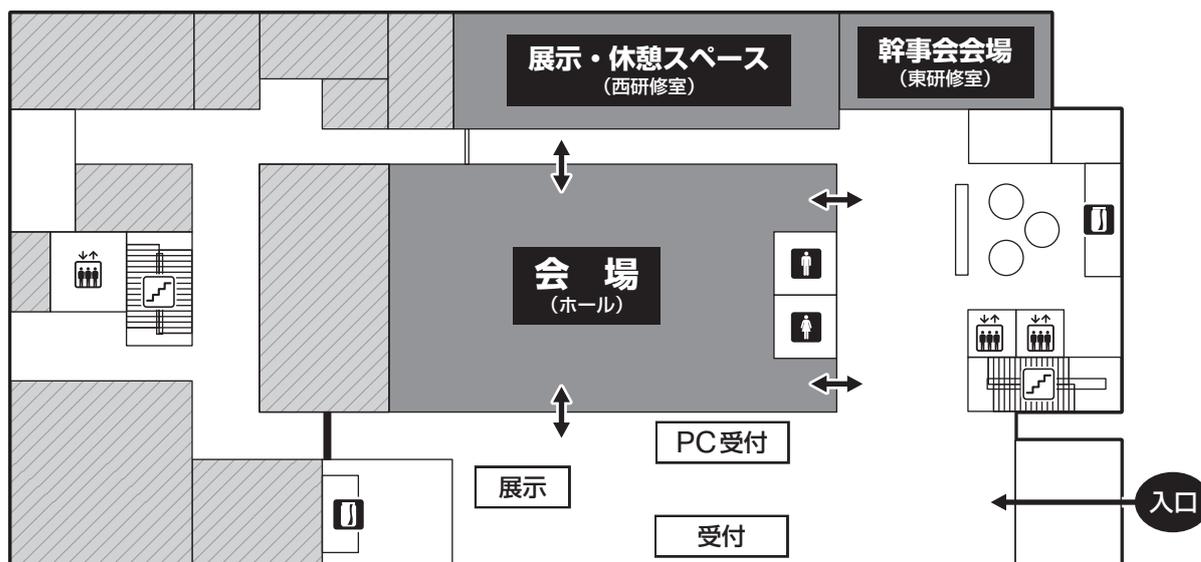
### お車をご利用の方

- 群馬県庁から(約1.8km 車で約5分)
- JR新前橋駅から(約2.5km 車で約6分)
- 関越自動車道 前橋ICから(約3.7km 車で約7分)  
IC出口(前橋方面:国道17号)→石倉3丁目交差点を左折→大渡町交差点を直進し約120m過ぎたら左折→直進約200mで公社総合ビル
- 国道50号方面から  
本町1丁目交差点を右折→千代田町3丁目交差点を左折→大渡町交差点を右折し約120m直進し左折→直進約200mで公社総合ビル

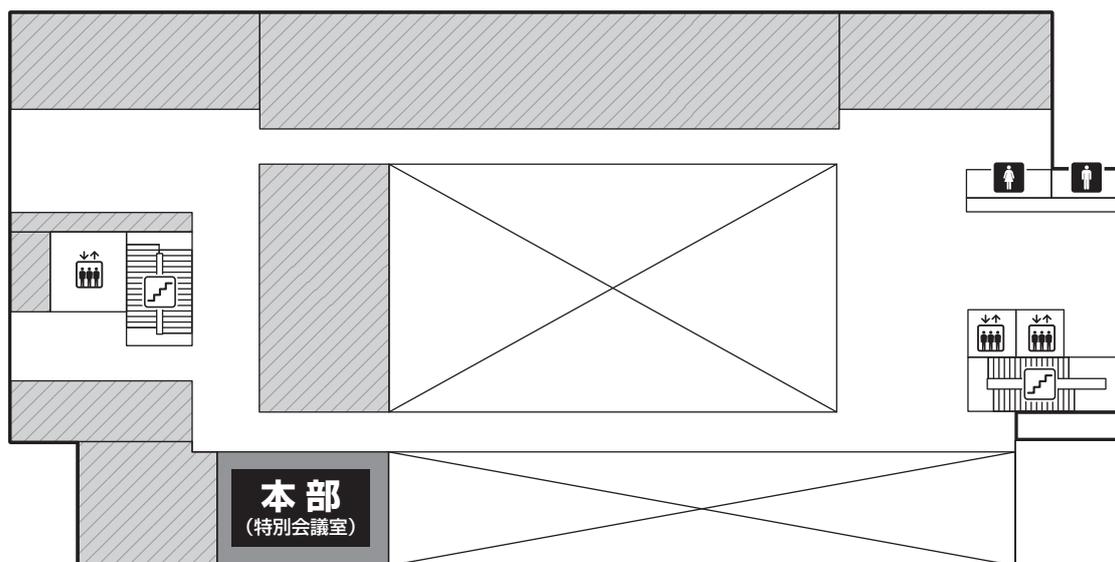
# 会場のご案内

## 群馬県公社総合ビル

1F



2F



# プログラム

## 開会の辞 13:00 ~ 13:05

第 37 回 当番幹事  
谷 賢実 (JCHO 群馬中央病院 外科)

## 総会 13:05 ~ 13:15

## 一般演題 A 13:15 ~ 13:55 【チームで取り組む高齢者・単身者のストーマケア】

座長：宮崎 達也 (原町赤十字病院 外科)  
青木 香代子 (恵愛堂病院 皮膚・排泄ケア認定看護師)

- |     |                                                                   |                 |        |
|-----|-------------------------------------------------------------------|-----------------|--------|
| A-1 | おひとりさまのストーマ生活を支える                                                 | 前橋赤十字訪問看護ステーション | 内山 奈美恵 |
| A-2 | セルフケアに消極的であった高齢ストーマ造設患者が意欲的に取り組むようになった要因                          | 群馬大学医学部附属病院     | 萩原 優人  |
| A-3 | 長期ストーマ患者のセルフケア困難に対するスキンケア外来における継続的支援<br>～その人らしさに寄り添い信頼関係を醸成する関わり～ | 群馬大学医学部附属病院     | 竹中 尚美  |
| A-4 | 高齢者ストーマ患者への受容と理解を支援し、入院前から外来への切れ目なく指導体制の再構築                       | 桐生厚生総合病院        | 吉田 美紀  |

## 休憩 13:55 ~ 14:10

※エントランスホール、西研修室で企業展示を行っていますので、足をお運びください。

## 一般演題 B 14:10 ~ 14:50 【業務改善・ケアの質向上への取り組み】

座長：武井 智幸 (公立藤岡総合病院 泌尿器科)  
工藤 亜希子 (公立七日市病院 皮膚・排泄ケア認定看護師)

- |     |                                                           |                         |        |
|-----|-----------------------------------------------------------|-------------------------|--------|
| B-1 | 外来ストーマケア表の改善を試みて                                          | JCHO 群馬中央病院             | 鈴木 里美  |
| B-2 | ウロストーマ看護外来を受診する患者に対して行った支援内容                              | 伊勢崎市民病院                 | 三友 ゆかり |
| B-3 | ストーマケアに関する看護師の知識や実践能力の向上への取り組み<br>～WOCN参加型カンファレンスの導入を通して～ | 独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター | 高平 亜美  |
| B-4 | バッグ付き親水カテーテルと従来型カテーテルの使用比較                                | 医療法人社団美心会 黒沢病院          | 友松 香世  |

## 休憩 14:50 ~ 15:05

※エントランスホール、西研修室で企業展示を行っていますので、足をお運びください。

## 一般演題 C 15:10 ~ 15:50 【困難症例対応の工夫】

座長：田中 成岳（桐生厚生総合病院 外科）

樋口 ありさ（群馬大学医学部附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師）

- C-1 難治性ストーマ脱に対してボタン固定術を施行し良好な経過をたどった一例  
利根中央病院 根岸 諒
- C-2 ストーマ皮膚障害となった患者の振り返り  
利根中央病院 増山 守枝
- C-3 ストーマ合併症のある回腸人工肛門患者の事例報告 ～ストーマ傍ヘルニア、潰瘍、出血のケア～  
群馬県立がんセンター 前原 圭道
- C-4 複数瘻孔を有するがん終末期患者の在宅移行支援：WOCN と共働する退院支援看護師の調整機能  
公立富岡総合病院 原 恵美子

## 休憩 15:50 ~ 16:10

※エントランスホール、西研修室で企業展示を行っていますので、足をお運びください。

## 特別講演 16:10 ~ 17:10

座長：谷 賢実（JCHO 群馬中央病院 外科）

演題：2040年に向けて考える。 ～ストーマ・排泄リハビリテーションの課題と未来への展望～

講師：熊谷 英子 先生（在宅WOCセンター センター長、皮膚・排泄ケア認定看護師）

## 閉会の辞 17:15 ~

第 38 回 当番幹事

田中 成岳（桐生厚生総合病院 外科）

# 特別講演



## 熊谷 英子 (クマガイ エイコ)

所属 ・在宅WOCセンター センター長  
・仙台エコー医療療育センター 看護療育部 顧問

### 【略歴】

1981年 東北大学病院 勤務  
2000年 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師取得  
2003年 東北大学病院 全国ではじめてのWOCセンター開設 専任  
2010年 東北大学大学院医学系研究科 障害科学専攻内部障害学分野  
博士課程前期2年過程修了 修士（障害科学）  
2011年 東北大学病院 看護師長  
2014年 むらた日帰り外科手術・WOCクリニック勤務 統括看護部長  
東北大学大学院医学系研究科 非常勤講師  
2020年 在宅WOCセンター開業 センター長  
仙台エコー医療療育センター 看護療育部顧問  
現在に至る。

### 【役員関連】

日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会理事  
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会特別会員  
東北ストーマリハビリテーション講習会世話人 在宅部門委員長  
宮城県ストーマケアに関する災害対策委員会 副委員長  
日本褥瘡学会評議員  
日本創傷・オストミー・失禁管理学会評議員  
宮城県皮膚・排泄ケア認定看護師会 代表世話人  
宮城県フットケア研究会 世話人  
日本オストミー協会宮城県支部 顧問 ほか

### 【学会関連】

第13回日本褥瘡学会東北地方会 会長  
2017年度日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 床ずれセミナー地区会長  
第35回東北ストーマ研究会当番世話人  
第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会大会長  
2027年度日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会全国会長予定

### 【受賞】

2007年 第24回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 学会賞受賞  
2008年 日本オストミー協会より感謝状授与  
2010年 第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 会長賞・学会賞受賞  
2025年 宮城県文化の日表彰授与

# 2040年に向けて考える。 ～ストーマ・排泄リハビリテーションの課題と未来への展望～

在宅WOCセンター  
熊谷 英子

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の高齢化率は35.3%に達すると見込まれる。また、2020年に実施された日本オストミー協会の実態調査においても、60歳以上の高齢者が全体の約80%を占めており、ストーマ保有者の超高齢化が推測される。

これまで、ストーマ・排泄リハビリテーション領域においては、2025年問題に対応すべく、入院日数の短縮化や地域包括システムの構築などの社会背景を踏まえた、高齢者のストーマ造設・管理のための入院前指導、退院前訪問、地域連携の強化などをはじめとする様々な取り組みが行われてきた。しかし、筆者が活動する在宅においては、入院中の指導不足や地域との連携不足等の問題等に加え、高齢者ならではの認知機能の低下、合併症の出現、手指の巧緻性の低下、円背、皴の出現などにより、ストーマ保有者や家族、在宅看護師がストーマ管理に難渋している現状がある。そのため、高齢ストーマ保有者のストーマ管理においては、これらの諸問題に対応できる人材育成と問題を解決するための連携やフォローアップ体制が必要不可欠と考え、問題を打破するための活動を行ってきた。

ここでは、筆者の「地域におけるストーマケアの取り組み」について述べ、2040年に向けてのストーマ・排泄リハビリテーションの課題と未来への展望について皆様と考えてみたい。

(取り組み内容)

1. 実践活動：WOC外来、訪問看護師との同行訪問による患者および家族、在宅医療者・介護者に対する直接指導
2. 教育活動：東北ストーマビリテーション研究会・講習会内に在宅部門を設立、東北6県で介護サービス担当者のためのストーマケア講習会または在宅看護師のためのストーマケア講習会の実施、在宅WOCセンター主催セミナー、メーカー主催のセミナーの開催、訪問看護ステーション・施設での出張セミナーの開催など
3. 啓発活動：宮城県ストーマケアに関する災害対策委員会の設立と運用
4. 社会活動：宮城県オストミー協会社会適応訓練事業の支援、顧問として活動の支援
5. 相談対応：年間1000件以上、ICT等の活用、病院医師・WOCN、地域連携室との連携
6. 宮城県ストーマケアに関する支援体制の構築

以上の取り組みにより、在宅看護師、介護士のストーマケアがレベルアップし、ICT等での指導のみで適切なストーマ管理が可能となるケースが増加している。また、病院や多職種とのシームレスな連携が浸透してきている。

2024年に向けての課題と展望としては、これまでの取り組みを地域全体、全国に拡大することで、より綿密なストーマケアの支援体制を構築して行きたいと考えている。また、少子化を踏まえたICTのさらなる普及やAIの活用などによる業務の効率化を図ることで、本来のストーマ保有者中心のストーマ・排泄リハビリテーションを皆様と一緒に目指して行きたいと考えている。



# 一般演題

## おひとりさまのストーマ生活を支える

内山 奈美恵、角田 美登里、三好 真由美、狩野 佳子、卯野 祐治  
前橋赤十字訪問看護ステーション

### 【目的】

高齢単身世帯であるおひとりさまは年々増加している。訪問看護でもおひとりさま宅への訪問は全体の約3割にのぼる。ストーマを持って、ひとりで生活している療養者への支援を検討する。

### 【方法】

症例検討

### 【結果】

70歳代男性、大腸癌でストーマ造設。自転車で行きたい所に出掛け、外食が多かった。またそうする事を望んでいた。抗がん剤治療に通院していたが、腎臓の管理が必要になり訪問看護が開始になった。ストーマ管理は自己流で、訪問看護師にストーマを触らせることはなかった。しかし抗がん剤の副反応で下痢が増え、ストーマ装具から便漏れが起き、皮膚トラブルが出現し、ひとりでのストーマ管理が難しくなった。皮膚排泄ケア認定看護師（WOC）に相談し、ストーマ外来受診に繋げ、ストーマ装具の変更やアクセサリーの利用、訪問看護師による定期的なストーマ装具交換でトラブル減少に繋げることができた。

### 【考察及び結論】

訪問看護は、療養者が望む生活が送れるよう看護の力で支援することである。今回の事例はWOCに相談したことで改善し、定期的に訪問看護師がストーマ装具を交換する事に繋がった。その結果、本人が望む生活に戻る事ができた。今後もおひとりさまへの訪問看護は増えると考えられる。一人一人の多様な生き方に、手探りしながら携わって行きたい。

## セルフケアに消極的であった高齢ストーマ造設患者が意欲的に取り組むようになった要因

萩原 優人<sup>1)</sup>、兼松 健弘<sup>1)</sup>、山崎 彩子<sup>1)</sup>、樋口 ありさ<sup>2)</sup>

1) 群馬大学医学部附属病院 北病棟五階、2) 外来

### 【目的】

ストーマ造設患者においてセルフケアの確立はQOL向上に重要であるが、高齢や合併症等の要因により困難をきたす症例も多い。今回の症例では、既存のセルフケア能力があると評価されていた患者において、ストーマセルフケア獲得までに時間を要した経過を振り返り、意欲変化の要因を明らかにする。

### 【方法】

看護記録及び診療録を後方視的に分析し、セルフケアに対する心理的变化をBanduraの自己効力感理論の視点で検討した。

### 【結果】

A氏、80代女性、結腸癌に対して一時的回腸人工肛門造設術施行。自己血糖測定・インスリン注射を行っており、術前からセルフケア能力があると評価されていた。術後介入初期は腹部視認困難やボディイメージの変容、高齢による受容への抵抗から、「やらない」「夫に頼む」といった消極的な発言が聞かれ、セルフケア獲得に難渋していた。装具選定や介助下での装具交換の実践を経験した後、「自分でやらないとね」「できるようになってきた」と発言が変化した。段階的に介助量を減らし、看護師からの肯定的な声掛けや夫同席で指導を行う中で、セルフケアに意欲的に取り組めるようになった。

### 【考察及び結論】

本症例では、既存のセルフケア経験があってもストーマという新たな自己管理行動に対する自己効力感は低下していたと考えた。Banduraの自己効力感理論の視点から、段階的な成功体験、肯定的な声掛け、家族支援が意欲変化の要因であり、自己効力感を高めセルフケア獲得につながったと考察した。

---

---

## 長期ストーマ患者のセルフケア困難に対する スキンケア外来における継続的支援 ～その人らしさに寄り添い信頼関係を醸成する関わり～

---

---

竹中 尚美<sup>1)</sup>、樋口 ありさ<sup>1)</sup>、小倉 秀代<sup>1)</sup>、村椿 茂里<sup>1)</sup>、羽鳥 智恵<sup>1)</sup>、佐藤 未和<sup>1)</sup>、新井 誠二<sup>2)</sup>

1) 群馬大学医学部附属病院 外来、2) 泌尿器科

---

### 【目的】

ストーマ造設から長期間経過した患者およびその周囲の環境には変化が生じる。術後11年が経過しセルフケア困難となった患者に対し、継続的な関わりにより本人の思いを尊重した在宅療養支援へ繋げた症例を報告する。

### 【症例】

80歳代男性。11年前、膀胱癌に対し膀胱全摘除術および尿管皮膚瘻造設術を施行。当時の主介護者である妻は認知症を発症。病勢進行や高齢化に伴い心身の辛さの訴えが増えたが、自分でできることは自分でしたいという思いが強い。2年前、ストーマ周囲皮膚炎を主訴にスキンケア外来を受診し、セルフケア方法の関与が考えられた。

### 【結果】

ケア手順の再確認により皮膚炎は改善したが、心身の状態により十分なケアが行えず再燃を繰り返す。2週間毎の受診とし、状況改善を図りつつ本人の思いや価値観に配慮し信頼を醸成した。癌の進行等により身体の辛さや不安が増し、皮膚炎再燃の頻度が増した。より密な支援が必要と考えたが、患者は訪問看護導入を希望しなかった。本人の希望を尊重し、他職種と連携の上、1年後に同意を得て訪問看護導入に至った。

### 【考察】

超高齢化社会を迎える中、患者とその周囲の変化に寄り添う支援が求められている。患者の「自分でしたい」という思いを尊重しながら関わる中で、本人の望む生き方に寄り添った在宅支援に繋げることができた。今後も訪問看護と連携し、患者がよりその人らしく日常生活を送れるよう支援する必要があると考える。

## 高齢者ストーマ患者への受容と理解を支援し、 入院前から外来への切れ目なくつなぐ指導体制の再構築

吉田 美紀<sup>1)</sup>、田中 成岳<sup>2)</sup>、石関しのぶ<sup>3)</sup>、鈴木 ひろ美<sup>3)</sup>、小林 郁美<sup>3)</sup>、金井 美紀<sup>3)</sup>

1) 桐生厚生総合病院 5階西病棟、2) 消化器外科、3) 看護部

### 【目的】

高齢患者のストーマ受容と理解を支援するため、指導体制の標準化と情報共有の一元化を図る。

### 【方法】

認定看護師、外来・病棟看護師、医師によるグループを立ち上げ、術前オリエンテーション内容の整理、患者用パンフレットの改訂、外来・病棟共通の指導チェックリストを作成。改訂後は、外来術前説明・入院中の指導・退院後外来フォローにおいて同一ツールを使用し、情報共有をした。評価として、指導内容の漏れ、患者の理解度に対する看護師の評価、スタッフの使用感を確認した。

### 【結果】

指導内容の統一により外来と病棟間の情報共有が円滑となり、指導の漏れが減少した。患者は段階的に情報を受けられるようになり、ストーマ受容の進行および自己管理に関する理解が向上した。また、看護師からは「チェックリストにより指導漏れが減った」「継続指導がしやすい」といった肯定的な評価が得られた。

### 【考察及び結論】

高齢者の多い当院において、指導内容とツールの標準化は特に有効であったと考えられる。高齢患者は新しい情報の理解や自己管理技術の習得に時間がかかるため、入院前の外来からパンフレットを活用し繰り返し提示することが受容と理解の促進につながった。さらに、チェックリストにより看護師間の指導の統一ができ、継続看護が実践しやすくなったことは、ストーマケアの質向上に繋がったと考える。

## 外来ストーマケア表の改善を試みて

鈴木 里美<sup>1)</sup>、廣田 幸恵<sup>2)</sup>、井上 麻子<sup>2)</sup>、割田 由貴<sup>2)</sup>

1) JCHO群馬中央病院 外来、2) 看護部

### 【目的】

当院ではストーマ外来を開設し、研修を受けた看護師が交代で指導を行っている。しかし現在活用しているストーマケア表（以下ケア表）では、記録内容が統一されていないという課題があった。そこで担当看護師が統一した観察項目で評価できるようにケア表の見直しを行った。本研究は、改善したケア表がストーマ造設患者への観察や指導に与える影響を明らかにすることを目的とする。

### 【方法】

当院で使用している電子カルテ内のケア表の内容について文献を参考に観察項目の見直しを行い、追加・修正した。改善したケア表を活用した後、ストーマ外来担当看護師に対して聞き取り調査を実施した。

### 【結果】

聞き取り調査では「観察項目が明確になったことで、アセスメントがしやすくなった」「確認事項や観察の聞き忘れが減少した」との意見が得られた。一方で「日常生活に関する不安について聴取すると次々でてきて時間内に聴取しきれなかった」「直接パソコンに入力できるようにしてほしい」などの課題も挙げられた。

### 【考察及び結論】

本ケア表を活用することで、ストーマ造設患者に関わりが少ない看護師も統一した視点で観察・評価を行うことが可能になった。また日常生活に関する内容をもとにアセスメントすることで、患者の生活背景に応じた具体的な指導につながったと考える。

本ケア表は現在評価段階にあり、今後はPDCAサイクルを回しながら継続的な改善を行っていく必要がある。

---

---

## ウロストーマ看護外来を受診する患者に対して行った支援内容

---

---

三友 ゆかり、石井 美希、須永 知香子  
伊勢崎市民病院 看護部

---

### 【目的】

ウロストーマ看護外来を受診する患者に対して看護師が行った支援内容を明らかにし、今後のウロストーマ看護外来でのより効果的な支援を検討する。

### 【方法】

2019年4月から2年間にウロストーマ看護外来を受診した患者延べ322人の看護外来記録より看護師が行った支援内容を抽出。意味内容の類似性に基づき分類しカテゴリ形成した。倫理的配慮は所属施設の倫理委員会にて承認を得た。

### 【結果】

看護師が行った支援内容は、583コード、33サブカテゴリ、10カテゴリを形成し【1. 装具の剥離から貼り付けまでの手技】【2. 皮膚トラブルへの対処方法】【3. 装具変更に伴う新たな手技】【4. 装具の交換間隔】等であった。

### 【考察及び結論】

カテゴリ【1】【2】【3】【4】は、ウロストーマ管理のセルフケアに関する支援であった。退院後もストーマケアを行う患者のセルフケア確立は必須であるが、在院日数短縮に伴いセルフケア未確立のまま退院する場合があります。患者の身体状況やセルフケア能力を確認して進める必要がある。セルフケア確立に向けて患者自身で確認できるツール等の作成を検討し、担当看護師同士で情報共有しながら患者の手技習得、身体状況、セルフケア状況を確認・指導し、継続的に支援することが必要と考える。

今後、ウロストーマ看護外来の支援として、患者のセルフケア確立に向けたツール等の作成、患者個々に合わせた受診間隔の調整、治療継続や自己管理への意欲向上に向けた心理的支援を継続的に行っていく。

## ストーマケアに関する看護師の知識や実践能力の向上への取り組み ～ WOCN 参加型カンファレンスの導入を通して～

高平 亜美、宇賀 由紀恵、清水 國代

独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 看護部

### 【目的】

消化器病棟であり、術前後にストーマセルフケアに向けた指導に取り組んでいる。定期的にストーマカンファレンスを行うことで、看護師の知識や実践能力の向上、個別性のあるケアに繋げることができるかを調査することを目的とした。

### 【方法】

皮膚・排泄ケア認定看護師（以降 WOCN）参加のもと、ストーマ増設患者全員を対象にストーマカンファレンスを定期的に行った。カンファレンス開始前と4ヶ月後に消化器病棟に勤務する看護師24名を対象にストーマ看護実践能力尺度を用いたアンケートで調査を行い、t検定でその差を評価した。

### 【結果】

「必要であれば、私は、ストーマ外来や訪問看護師や在宅医療施設と連絡を取ることができる」と「私は社会復帰後の生活をゴールとした計画を立てることができる」の2項目で $P<0.05$ となり有意差があった。また、2度目のアンケートでは自由記載欄に「病棟全体で考えられ、個々の患者にあった支援・看護に繋がって良い」「社会福祉サービスの理解、知識不足に気づいた」と記載があった。

### 【考察及び結論】

カンファレンスを行うことで、退院後の生活を見据えた情報収集と個別性のある援助の重要性を再認識することができ、退院支援に関する意識が向上した。その結果、退院後の社会復帰に向けた看護計画の立案・修正などが早期からできるようになったと考える。また、専門的な知識や技術が豊富な WOCN から直接助言を得ることで、スタッフ全体の知識が向上し、教育・学習の機会の間にもなった。

## バッグ付き親水カテーテルと従来型カテーテルの使用比較

友松 香世<sup>1)</sup>、角野 まなみ<sup>1)</sup>、気仙 真未<sup>1)</sup>、小泉 彩夏<sup>1)</sup>、松井 景嗣<sup>1)</sup>、奥木 奈美子<sup>1)</sup>、角田 あゆみ<sup>1)</sup>、  
曲 友弘<sup>2)</sup>、伊藤 一人<sup>2)</sup>、黒澤 功<sup>2)</sup>

1) 医療法人社団美心会 黒沢病院 看護部、2) 泌尿器科

### 【目的】

親水性コーティング型の導尿カテーテル使用例が増加し、さらにバッグ付きカテーテルも発売されている。今回当院で採用している各種カテーテルを使用し、使用感を含めた各種比較検討を行った。

### 【方法】

バッグ付き親水カテーテル(バッグ群)、親水コーティングカテーテル(親水群)、非親水カテーテル(非親水群)を外来・病棟で使用し、準備にかかる時間を計測した。また、使用感を中心としたアンケートを行い、各群で比較した。本研究は当院の倫理委員会で承認を得た。

### 【結果】

バッグ群の準備時間は26秒～298秒(中央値132秒)の一方で、非親水群は134秒～360秒(中央値247秒)であった。バッグ群の使用感に関するアンケートでは、準備が楽、準備時間の短縮などの意見の一方で、バッグ内の尿が出しにくい、逆流防止弁から先に流れにくいなどの意見も聞かれた。

### 【考察及び結論】

バッグ群は非親水群と比較すると、約半分の時間で準備ができ、非常に使いやすいという意見の一方で、使いにくいという意見もあった。また、バッグ群の準備は単純な手順になっており、新人看護師にとって「導尿」という看護技術のハードルが下がる可能性が示唆された。

## 難治性ストーマ脱に対してボタン固定術を施行し 良好な経過をたどった一例

根岸 諒<sup>1)</sup>、村山 清美<sup>2)</sup>、松本 厚子<sup>3)</sup>、岩崎 竜也<sup>1)</sup>、浦部 貴史<sup>1)</sup>、稲川 万里江<sup>1)</sup>、小林 克巳<sup>1)</sup>、郡 隆之<sup>1)</sup>

1) 利根中央病院 外科、2) とね訪問看護ステーション、3) 利根中央病院 WOC 看護師

### 【目的】

ストーマ脱は人工肛門の晩期合併症として比較的頻度が高いが、難治例に対して標準化された治療は確立していない。今回、保存的治療で改善せず再発を繰り返したストーマ脱に対し、ボタン固定術を施行し良好な経過を得た一例を経験したため報告する。

### 【症例】

症例は60歳代女性。S状結腸癌・多発肝転移に対し化学療法中、癌性腸閉塞を来し腹腔鏡下横行結腸双孔式人工肛門を造設した。術後経過良好で自宅退院したが、術後5週目に肛門側ストーマが約10 cm脱出し救急外来を受診した。徒手整復で一時還納可能であったが再脱出を頻回に認め、保存的治療では改善せず、本人の希望もあり手術の方針となった。脱出した腸管を整復後、エコーを用いて腹壁と横行結腸間に他の腸管がないことを確認した。その上でボタンに2-0モノフィラメントを通し直針を横行結腸内部から腹壁に向けて穿刺し両端を皮膚から取り出し外側のボタンに糸をかけて結紮し固定した。

### 【結果】

術後合併症は認めず、ストーマ形態は安定し脱出再発を認めなかった。排便機能も良好で、術後早期に通常のストーマ管理が可能となった。

### 【考察及び結論】

ストーマ脱に対する治療は整復術、再造設、自動吻合器による腸管切除・吻合など多岐にわたるが、低侵襲性と再発予防の点で適切な術式選択が重要である。本症例ではボタン固定術により脱出防止とストーマ機能の維持が可能となり、難治性ストーマ脱に対する有効な選択肢となり得る。

## ストーマ皮膚障害となった患者の振り返り

増山 守枝、西巻 好美

利根中央病院 4B 病棟

### 【目的】

ストーマ皮膚障害により入院期間が延長した1事例を通して、入院時のアセスメント及びケア内容を振り返りスタッフ間で共有を行うことで、ストーマケアの質及びスキルの向上につなげることを目的とする。

### 【方法】

カンファレンスにおいて症例を振り返り、ストーマケアの内容及び問題点について検討した。

### 【結果】

抗癌剤治療中であり早期退院希望していたが、骨折による疼痛のためストーマセルフケア困難となった。入院3日目の定期交換時にパウチ交換を実施した際、ストーマ周囲に軽度の発赤を認めた。2回目の交換時には、ストーマ周囲全体にびらんが拡大していた。WOCNに介入を依頼し、連日のパウチ交換を実施したが、交換時の疼痛の訴えが強かった為、鎮痛剤の内服及び表面麻酔を使用し、疼痛緩和を図りながらケアを行なった。その結果皮膚障害は徐々に改善傾向を示し、ストーマセルフケアの確立が可能となり退院に至った。

### 【考察及び結論】

抗癌剤治療中であり皮膚障害を起こすリスクが高いことや体動困難によるセルフケア不足により皮膚障害の悪化につながったと考えられる。また緊急入院で患者情報やストーマケアに関する情報を十分に聴取できていなかったことも一因と考える。

今回の事例を振り返り入院早期に可能な限り情報収集することの重要性を学ぶことができた。またストーマケアの個別性や課題を明確にし適切なストーマケアに繋がれるようにカンファレンスで共有するとともに勉強会を通じて知識と技術の向上を図っていく。

## ストーマ合併症のある回腸人工肛門患者の事例報告 ～ストーマ傍ヘルニア、潰瘍、出血のケア～

前原 圭道<sup>1)</sup>、伊久間 香織<sup>2)</sup>

1) 群馬県立がんセンター 6階西病棟、2) 看護部長室

### 【目的】

ストーマ合併症を発症すると、ストーマ管理に難渋することが多い。今回、回腸人工肛門造設術後の化学療法中にストーマ粘膜皮膚離解、ストーマ傍ヘルニア、ストーマ周囲潰瘍、ストーマ出血を発症した患者のケアを行った。このケア方法について報告する。

### 【方法】

潰瘍は感染制御目的で銀配合ハイドロファイバー創傷皮膚保護剤を使用し、ストーマ傍ヘルニアに対しては軟性凸面型装具を使用した。しかし、潰瘍の拡大、ストーマ出血をきたした。そのためストーマ出血に対して止血目的でアルギン酸塩ドレッシング剤を使用し、滲出液の吸収目的でストーマ近接部全周に用手成形皮膚保護剤、露出する潰瘍部に粉状皮膚保護剤を使用した。また、近接部は用手成形皮膚保護剤の代わりに固定型皮膚保護剤の使用でも止血することが出来た。ストーマ傍ヘルニアのある回腸ストーマは、二品系平面型浮動型フランジサイズ102mmを使用して管理した。

### 【結果】

創傷被覆剤、ストーマ装具、アクセサリ類を工夫することで出血なく3日おきの在宅管理が可能となった。

### 【考察及び結論】

アルギン酸塩ドレッシング剤と用手成形皮膚保護剤、粉状皮膚保護剤を併用することで出血のコントロールが得られた。難治性合併症に対して3日おきの管理が出来たため今回のケア方法は有効であった。

## 複数瘻孔を有するがん終末期患者の在宅移行支援： WOCN と共働する退院支援看護師の調整機能

原 恵美子、千葉 雅子  
公立富岡総合病院 看護部

### 【目的】

複雑なケアを要する患者の在宅移行は、管理不安から断念するケースも想定される。本報告では、尿路ストーマと複数瘻孔を併発したがん終末期患者が、病態変化に即応し在宅でQOLを維持できた事例を提示する。WOCNと訪問看護師を繋ぐ退院支援看護師の調整機能が、情報共有と支援体制強化に果たした役割を分析し、WOCNの共働するパートナーとしての有用性を検討する。

### 【症例】

対象は上記患者1名。退院調整開始から再入院を繰り返しつつ在宅療養を継続した期間を対象とし、退院支援看護師による調整内容と影響を後方視的に検討した。

### 【結果】

以下の体制を構築した。1) ケア共有の場：WOCNの処置への訪問看護師同席を調整し、手技習得と観察視点の共有を促した。2) 迅速な情報連携：ICT等を活用し最新手順と在宅の変化を双方向へ繋いだ。3) 情報の齟齬の補完：移行時に漏れやすい管理詳細を抽出し、双方の認識を一致させた。これらにより即応体制が維持され、患者は不安を抱くことなく趣味の時間を確保し、本人らしい生活を継続できた。

### 【考察及び結論】

退院支援看護師がWOCNのパートナーとして連携を支えたことは、ケアの継続性と患者の安心感に寄与した。多職種間の情報を整理し認識を統一する調整機能は、困難な課題を持つ患者の生活を支える不可欠な基盤となる。本事例は、退院支援看護師が調整役として継続関与する意義を示しており、今後の在宅移行支援の実践における一助となる。

# 群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 会則

## 第一章 名称および事務局

第1条 本会は群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会と称する。

第2条 本会は事務局を設置する。  
事務局は利根中央病院内におく。

## 第二章 目的および事業

第3条 本会はストーマならびに排泄障害に対するリハビリテーションの向上と普及を通じて、オストメイトならび排泄障害者のQuality of Lifeの改善を図ることを目的として次の事業を行う。

1. 学術集会の開催
2. その他本会の目的達成に必要と思われる事項

## 第三章 会員

第4条 本会の趣旨に賛同する以下の個人あるいは団体をもって構成する。

1. 個人会員 本会の目的に賛同する医師、ET（Enterostomal Therapist）、WOCN（皮膚・排泄ケア認定看護師）、看護師、保健師、福祉関係者などの医療従事者
2. 賛助会員（団体）本会の目的に賛同し、所定の特別の会費を納め、幹事会で認めた団体
3. 賛助会員（個人）本会の目的に賛同し、幹事会で認めた個人

## 第四章 役員その他

第5条 本会に次の役員をおく。なお、名誉顧問、顧問および名誉幹事をおくことができる。

1. 役員  
1) 会長 1名  
2) 幹事 若干名  
3) 監事 2名  
4) 当番幹事 若干名
2. 名誉顧問 若干名
3. 顧問 若干名
4. 名誉幹事 若干名

第6条 役員は幹事会において幹事より選出し、総会の承認を得て決定される。

第7条 幹事は幹事会において推薦し、総会の承認を得て決定される。

第8条 名誉顧問、顧問および名誉幹事は幹事会の推薦により会長が委嘱する。

第9条 役員任期は2年とし再任を妨げない。ただし、当番幹事の任期は1年とする。名誉顧問、顧問および名誉幹事の任期は規定しない。

第10条 役員職務は以下の通りとする。

1. 会長は本会を代表し会務を統括する。
2. 当番幹事が中心となり、学術集会の開催および運営を行う。
3. 幹事は当番幹事を補佐し、会務を分担する。
4. 監事は会計および業務の執行を監査する。
5. 事務局は本会運営上の諸事務を担当する。
6. 名誉顧問、顧問および名誉幹事は会長の諮問に答え、会務に関して意見を述べることができる。
7. 幹事会の成立には委任状を含めて幹事の過半数の出席を要し、議事の決定は出席者の過半数をもって行う。

## 第五章 会合

第11条 本会の会合を幹事会、総会および学術集会、等とする。

第12条 幹事会、総会および学術集会は必要に応じて開催する。尚、学術集会の際には総会を開催することとする。

第13条 学術集会は年1回以上開催することを目標とする。

(尚、研究会の開催回数は積算とする。)

## 第六章 会計

第14条 本会の運営経費は、学術集会の参加費、寄付金および補助金その他をもってこれにあてる。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日とする。

第16条 会計は当番幹事および事務局において集計し、監事および幹事会の承認を得た後に、総会で承認されなければならない。

第17条 会費等の改定は幹事会での審議を必要とする。

## 第七章 会則の改廃

第18条 本会則の改廃は幹事会で審議し、総会にはかるものとする。

- 付則
- 1) 本会則は平成7年10月13日より施行する。
  - 2) この会則は平成16年6月25日より変更施行する。
  - 3) この会則は平成20年1月18日より変更施行する。
  - 4) この会則は平成29年3月4日より変更施行する。
  - 5) この会則は令和4年6月29日より変更施行する。

# 協力企業一覧

---

株式会社 あらいメディカル  
アルケア株式会社  
イーキンジャパン株式会社  
株式会社栗原医療器械店  
コロプラスト株式会社  
コンバテックジャパン株式会社  
東洋羽毛北関東販売株式会社  
公益社団法人日本オストミー協会群馬県支部群馬あかぎ互療会  
株式会社フィッティング Otuka  
株式会社ホリスター ダンサック  
株式会社ホリスター ホリスター

(五十音順)

第37回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会の開催にあたり、上記企業より多大なるご支援を賜りました。  
この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第37回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会  
会長 谷 賢実  
(JCHO 群馬中央病院 外科部長)

きめ細やかな対応で、地域の皆さまに安心をお届けいたします。

ストーマケア用品は各店舗にてその場で購入いただけます。

(パウチ類は取寄商品もございます)

各店舗に専門スタッフが常時在籍しておりますので、  
ご来店いただく皆さまに喜ばれております。

### ストーマケア用品の専門店

ストーマ用品各種メーカー取扱い  
補装具・日常生活用具給付委託事業者として契約済  
(群馬県全域・近県市町村)



伊勢崎店 〒379-2221 群馬県伊勢崎市国定町一丁目634-3

沼田店 〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1897-6



— 専門性と質の高いサービス —

オーツカ  
(株)フィッティング Otuka

<https://s-fo.net/>

【伊勢崎店】営業時間 / 9:00 ~ 17:30(土17:00) 定休日 / 日曜日・祝日 ☎ 0120-63-6058

【沼田店】営業時間 / 10:00 ~ 17:00 定休日 / 水曜日・日曜日・祝日 TEL. 0278-25-9533

## ストーマケア用品専門店

## だからできるサービスがあります



©2019 あらいメディカル

専門スタッフ  
による  
受付センター

- ・ 受付センターでは、日々のお悩み等のご相談可能
- ・ 社会福祉制度の申請サポート

選べる  
ストーマケア  
セットをご用意

バラ販売  
カットサービス  
返品・交換

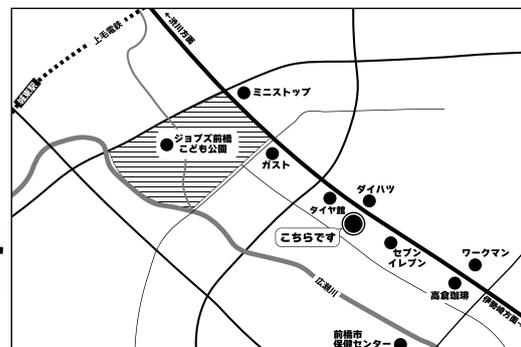
### ショールーム併設！実際にケア用品をご覧いただけます

#### ■所在地

本社：埼玉県坂戸市薬師町 34-3

前橋カイン：群馬県前橋市西片貝町 5-19-6 EAST STREET C 号

宇都宮カイン：栃木県宇都宮市泉が丘 3-1-10 伽羅ビル1F



皆様の安心と快適な暮らしをサポートいたします

本社オフィス ☎049-298-7400

前橋オフィス ☎027-212-3640

平日 9:00~17:00 (定休日: 土曜・日曜・祝日)

For **You**   **栗原医療器械店**  
KURIBARA MEDICAL INSTRUMENTS

つながる想い、広がるしあわせ。

ライフケア事業本部

お電話でのお問い合わせはこちら

 0120-294-205

## 日常生活用具給付委託事業者・介護保険福祉用具貸与事業所

スーマケア関連用品販売

衛生材料、在宅医療用品販売

福祉用具のレンタル及び販売

住宅改修



For **You** HomeCare

by 栗原医療器械店

栗原医療器械店がお届けする  
医療・介護用品がそろそろ総合通販サイト  
[www.kuribarastore.com](http://www.kuribarastore.com)







独立行政法人 地域医療機能推進機構

群馬中央病院

Gunma Central Hospital

地域と密着

～希望に応える医療へ～

病院公式HP

病院公式Facebook

病院公式Instagram



@JCHO\_GUNMA

＼ 安心して暮らせる地域をめざして ／

027-221-8165

JCHO群馬中央病院

〒371-0025 群馬県前橋市紅雲町1-7-13

